

平成 30 年第 1 回定例会 県民・スポーツ常任委員会

平成 30 年 3 月 16 日

高橋(稔)委員

青少年センターの機能ということで少し確認させていただきたいと思いますが、その前に、今日は合同でございますのでスポーツ局もいらっしやっていますので、青少年というと、やはり今開催中の平昌オリンピック、ここで本当に多くの青少年が頑張っているなど。このこともありますので、まず、そこから一言入ってきたいと思うのですが、この 2 月 9 日から 2 月 25 日までオリンピック、3 月 9 日から 3 月 18 日までパラリンピックが平昌で開催されておりますが、これほど私どもに感動を与えてくれたオリンピック・パラリンピックであります。開催を 2020 年に本県でも受け入れていくわけですが、この現状をスポーツ局長は、青少年のこの選手たちにどういふ熱い思いを持っておられるのか伺っておきたいと思っております。

スポーツ局長

私ごとになりますが、1964 年の東京オリンピックのときは新潟におりまして、そこで小学校の 1 年生でございました。テレビを見ながら、東洋の魔女の活躍を見て、それから、これは記憶に鮮明でございますが、円谷選手がヒートリー選手に抜かされて、悔しいというような思いでテレビを見ていた覚えがございます。そのころも日本選手が大活躍で、友達の間でも大盛り上がりした記憶がございます。その後、札幌オリンピックなどではジャンプの日の丸飛行隊も大活躍で、これも中学生のときに、みんなでテレビにかじりついておりました。

私どもだけではなく、恐らく多くの国民にとって、オリンピックというのは特別な存在だと思います。かつては今申し上げましたように、日本の選手の活躍、それから、メダルが幾つというところに非常に重点を置いておりましたが、最近はまだ少し様子が変わってきた。パラリンピックに非常に注目が集まってきて、自分の持ち得る機能を最大限に発揮していく、そのパラリンピアンのためまぬ努力、精神力に私たちが学んでいくべきではないかといった気持ちがこの社会全体に満ちてきたものと思っております。

さらに、先の平昌オリンピックの例えばスケート競技ではございますが、アスリート同士が互いにたたえ合う姿、それが勝敗を超えて、私どもの胸に届いてくる、全ての人の胸を打つ、国境を越えて感動を与える、こういった姿が正にオリンピックの目指すところではないかという、私どもにオリンピック精神のあるべきものを教えてくれてきていると思っております。

私たちはこの気持ちをオリンピック、まず、それからその前年のラグビーワールドカップ、ここにも引き続きその気持ちを持ち続けていく。それだけではなくて、子供たちも含めて、オリンピック精神をこのラグビーワールドカップ、オリンピックをはずみにして、日本全体に広げていくのだと、そういったつもりでこの大会を成功に導いていく。それが我々オリンピック、それからラグビーワールドカップに携わる者の使命の一つであるというふうに考えているところでございます。

高橋(稔)委員

予算委員会では時間がなかったもので今回伺いました。そのような思いでしっかりオリンピック・パラリンピック開催の本県の担当局長として、しっかり御尽力いただきたいと、強く要望しておきたいと思います。

そこで青少年センターの現状を踏まえて、昨日の予算委員会でも自民党の加藤委員から、青少年センターの四つの機能を充実させていくということで質疑がありました。これは非常に大事なことだと思って伺っておりましたが、再度、この四つの機能をどういうふうに拡張していくのかなというところが非常に気になるので、御見解を伺っておきたいと思います。

青少年課長

青少年センターは、設立時から科学体験の支援、舞台芸術の支援、県有施設等の統合・集約化に伴う指導者の育成機能、さらには、新たな課題としての県の対応として、相談員教室、この四つの機能、これが現在のあるところでございます。青少年を取り巻く環境が非常に大きく変化をしている中で、青少年施策、総合的な施策の拠点としての青少年センターの役割は非常に重要になってきているところでございます。

今回もそうした視点で、青少年センター機能の充実にあたりましては、先端科学と連携いたしました取組を進めるために、科学部の拠点を移転されるというような決断がございました。それから、それぞれの機能の強化に向けて積極的な展開を図っていくというふうに考えておるところでございます。特に演劇手法を活用したワークショップなどのように、引きこもりの青少年を対象にして、ほかの機能と相互に連携してというところを力を入れて、取組を進めていくというような形で考えてございます。

そういった意味では、今申し上げた機能間の連携を含めまして、現行の機能をしっかりと充実していくと、そこにまずは注力していきたいというふうに考えているところでございます。

高橋(稔)委員

現状の機能を充実させていくという中で一つ要望なのですが、舞台芸術を通じて演劇が広く展開されていくというふうに承知はしているのですが、非常に今ダンスが盛んで、オリンピック・パラリンピックのこの文化プログラムでも、ダンスが注目されていくのではないかとということが言われておりますが、本県においても、川崎高校をはじめ、高文連の方々の御尽力で非常にダンスが盛んになっています。そういった意味では、こういう高校生はじめ、ニーズの高いダンスについてもしっかりと光を当てていくべきではないかなと思うのですが、ちょっと御見解を伺っておきたいと思う。

青少年課長

青少年センターで、やはり青少年の出演するダンスのイベントは多数開かれてございます。中には、青少年のダンス発表会というように、今年で52回目を迎えたような、そういう歴史のあるようなイベントもあるというふうに伺っています。このほかに、青少年センターの主催で青少年のダンスの鑑賞会や青少年ダンス講習会といった事業を、毎年度開催をしております。

このように青少年センターではこれまでも青少年を対象としたダンスの鑑賞

の機会づくりなどに力を注いできたところですが、引き続き今後も、ダンスにひたむきに取り組むような若者たち、青少年を後押しをしていくような取組を続けていきたいというふうに考えております。

高橋(稔)委員

ダンスというのはヒップホップですね、私はこの国際大会があるというのは知らなかったのです。中野サンプラザへ行って国際大会を見てきましたが、あるグループはこの間同行視察してきましたが、横浜訓盲院で目の不自由な方々にダンスを教えているのですね、目の見えない方がダンスを踊って、ヒップホップの曲に合わせて体を動かして、リズムをとっているのを見まして、スポーツ局長の答弁ではありませんが、ハンデキャップを乗り越えて本当に感動を与えているところに私も驚いたのです。そういった意味では、この県民局の青少年センターの機能、更にいろんな可能性の追求を一層目指していただきたい、いろんなところに光を当てていただきたいというふうに思うのです。私の勝手な解釈ですが、愛称もHIKARIになったのですから。

最後に、今後のこの青少年センターの管理運営方針、在り方について確認しておきたいのですが、指定管理ということは今後は視野に置いていかれるのでしょうか。どういうふうに、更に多くの方々の力をこの青少年センターに注ぎ込んでいくか、大きく青少年を中心に多世代交流を図っていくか、様々な考え方があろうと思うのですが、指定管理の在り方についてはどういうふうに考えているのか確認させていただきます。

青少年課長

青少年センターは、今申し上げたように専門的で多様な四つの機能を有した本県の青少年施策の総合的な拠点として役割を果たしているところでございます。

その運営方法等については、少し前になります平成21年11月には、外部有識者が青少年施設の在り方の検討等をやっております、その検討状況を県議会、常任委員会のほうに御報告をさせていただいた際に、青少年センターへの指定管理者制度導入ありきではなく、青少年センター、青少年行政をどうしていくかを基本に考え、議会の議論をきちっと聞いて方向性を定めていくと、もらいたいと、こういった御意見を頂いたことがございます。

また、平成24年1月からの神奈川県緊急財政対策の県有施設の見直しの中で、青少年センターにつきましては、別館機能を本館へ移転・集約する、併せて、本館は若者の演劇文化の拠点としての機能を強化するとの方向性を議会にも御報告させていただいて、御了解いただいた上で、直営施設として存続しながら、継続したところでございます。

こうしたことを踏まえまして、青少年センターへの指定管理者制度導入を検討するに当たりましては、青少年施策の拠点としてどのような選択するか慎重にまず検討をし、現在のセンターの異なる専門性の高い四つの機能をどうすべきかを含めて、検証すべき多くの課題もあろうかと考えます。このため、まずは今回予算案でお示しをさせていただいた科学部門の移転をはじめとした新たな事業の展開をさせていただいて、機能の充実を図りたいと考えております。そうした上で、取組の状況も見据えながら、青少年施策の拠点である青少年セ

ンターの有すべき機能、果たすべき役割、そのためにどのような運営形態がより効果的なのか、指定管理者制度の導入の可能性も含めまして、今後検討できればと考えておるところでございます。

高橋(稔)委員

この県民局の最後に当たって、様々なところに皆さんが新しい立場で仕事を展開されていくと思うのですが、御答弁にもありましたように、青少年センターの機能充実から、さらに10年前の議論を踏まえて、今後更に先を見て、どういふふうに青少年センターがあるべきなのか、こういうことについては、新しいところに行かれても、是非こういったことのフレキシブルな考え方は堅持していただきたいなということ強く要望して質問を終えます。